



6月号

令和7年6月6日 発行

四中だより

朝霞市立朝霞第四中学校
埼玉県朝霞市栄町 5-1-60
TEL(048)466-4711
Fax(048)467-4744

目指す学校像

生き生きと学び、夢と希望を胸に、感動を実感できる学校

生徒が私たちに「先生」にしてくれる

～ 教育実習の様子から ～

校長 おおた さだはる 太田 禎治

本校では先月30日までの3週間、5名の教育実習生を受け入れていました。将来、教師という職業を希望する学生にとって、とても重要な、かつ貴重な体験ができるのが教育実習です。実習生も一生懸命で、夜帰宅した後も授業準備に時間をかけたと聞いています。(30年以上前の自分の教育実習のころを思い出しました。)

最終週には、実習生は研究授業として50分の授業を1コマ全部任されます。5名の実習生の研究授業の様子を見に行きました。どの実習生も生徒にわかりやすいように教材の工夫を施していたのがわかります。ただ、授業そのものは、決して「うまい！」と言えるほどのものではありませんでした。初めて教壇にたつ実習生です。

「うまい！」授業ができなくても当然です。(わずか3週間程度で「うまい授業」ができてしまったら、指導者でもある先輩教師たちは面目がたちませんが。)

研究授業では、実習生の様子はもちろん、その授業をうける生徒の様子もしっかり見させていただきました。どの研究授業でも、本校の生徒たちは先生(実習生)から出された課題に一生懸命取り組もうとしていました。その様子を見た後、「生徒たちが実習生を先生にしてくれている」と感じざるを得ませんでした。当たり前ですが、先生はたった一人では先生にはなれません。生徒がいてこそその先生です。

研究授業には実習生の所属大学の教官も見学に来校されましたが、授業を受ける本校生徒の様子をみて「四中の生徒さんたちは本当に素晴らしいですね」とお褒めの言葉をいただきました。それたどえ社交辞令であったとしても校長としてはうれしい限りです。

私たち教師は、子ども(生徒)あってこそ。子供たちによって「教師」をさせてもらえるのです。本校着任前、教育委員会で勤務していたころの私はもちろん「教師」ではありませんでした。「はじめに子供ありき」。生徒のためにどんな授業が展開できるのか。1学期も後半戦に突入しました今、教職員全員で改めて考えたいと思います。